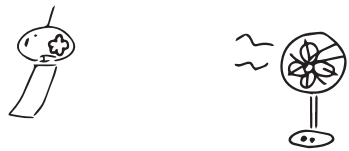


Youth
Manna

2021/8/23 - 8/29



さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。マルコ 1:35

2021/8/23(月)

使徒 27:1-12

パウロはルカ、他の数人の囚人、テサロニケのマケドニア人アリストアルコとイタリアへ出航することが決まった。確認してみると、エルサレムから良い港、マルタを経由して幾多の箇所を渡り歩きながらローマに到達したことがわかる。

ところで、私たちは日々、変わりばえのないような毎日を過ごしていると感じることはないだろうか？毎日同じ繰り返しのように感じる学校生活や家での過ごし方に、うんざりしていないだろうか。しかし、ルカを通して神様はパウロの足跡をここまで正確に残された。私たちの変わりばえのないように見える日々の歩み、今置かれている場所もまた、神様があなたに与えられたゴールへの道のりに決して欠かすことのできない地点であることを思い出そう！

2021/8/24(火)

使徒 27:13-26

船は「良い港」から出帆したけれど、想定外の暴風に巻き込まれてしまい、流されるままになってしまおうよ。暴風に翻弄され、持ち物も投げ捨て、太陽も星も見えない日が何日も続いた。自分たちが今どこにいて、どこに向かっているのか見当もつかない絶望的な状況だったんだ。

そんな中、パウロは自分に語られた御使いのことばを受け取り、人々に大胆に話し、「必ず助かる」というメッセージをして、みんなの心に希望の光を灯すよ。

太陽や星が見えないような日々があったり、希望を持ってない時があるだろうか。神様が全てをご存知で、決して私たちを見捨てない方であることを心に刻もう。信仰を働かせて忍耐を持って歩もう！

2021/8/25(水)

使徒 27:27-44

27-32：暴風の中海を漂って14日目、水深が浅くなり始めていた。水夫たちは恐れ、自分たちだけでも助けたいと小舟で脱走しようとしたが、神はパウロを用いてそれを阻止された。

33-38：二週間の間人々は何も食べずに過ごしていたが、この状況でパウロは、誰もが認める指揮官となっていた。一同に食事をするよう勧め、神に感謝の祈りを捧げてから276人と共に食事をした。

39-44：船がついに座礁し、船体が壊れ始めた。兵士たちは護送中の囚人を逃したら自分たちが死刑になると恐れ、殺そうとした。しかし百人隊長はパウロの「全員助かる」という言葉を信じ、全員に上陸するよう命じた。全員が助かり、御使いの約束は成就した。

パウロはどんな時も神とともに歩み、尊敬と信頼を得ていた。どのような状況下においても神とともに歩めるよう祈ろう！

2021/8/26(木)

使徒 28:1-16

パウロたちは、嵐に流されマルタ島に漂着した。島の人々は親切にしてくれ、寒かったので火を焚いて温めてくれた。この時パウロにマムシが噛み付くということが起きたが、パウロはなんの害も受けなかった。

またパウロたちに親切にしてくれた島の長官プブリウスの父が病におかされていたので、祈り癒しを行い、その話を聞いた島の人々も集まったので、癒しを行った。島の人たちは感謝から船出する時に必要なものを用意してくれた。

2週間も嵐にあり、漂着し、マムシに噛まれる、という、神様がいるのになぜ？と思うかもしれないが、そこにも解決があり、神様は共におられている。

全ての状況に神様は共におられる。状況だけを見て悲しむのではなく、神様に期待しよう！

2021/8/27(金)

使徒 28:17-31

パウロがローマでユダヤ人を呼び集めたのは、彼らの救いを切に願っていたからです。ローマのユダヤ人たちは、イエスを主と信じる「この宗派」に対する反対があることは知っていたけど、パウロについての悪い話は聞いていないと言っているね。これは、パウロだけで宣教が進められたのではなく、名もなき人々による宣教が多くなされていたことを意味しているよ。

パウロはまる二年間、少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく宣教しました。ここで「使徒の働き」は終わるけれど、福音宣教のバトンはその後も繋がれていって、それは今、僕たちの手に届いている。

君が救われたのは、君を通して福音を聞く人たちがいるからなんだ。家族、友達の救いを祈り、イエス様のことを証しよう！

2021/8/28(土)

Ⅱ 歴代誌 21 章

ヨラムが王様になって、彼は奥さんの親であるアハブたちが歩んだ偶像礼拝の道を選んでしまった。兄弟を殺し、教えてくれる人も殺し、預言者を通して語られた神様のことも聞き入れることなく進み続けてしまったね。神様が立てて導いた国を、神様ぬぎに動かそうとした結果は明らかで、国がまともに前進することなんてなかったんだ。そして、神様を捨てたヨラムの最後は、自分自身が民から捨てられる哀しい結果になってしまった。

私たちの中に神様をないがしろにしてしまう部分はないかな？私たちの主は神様ただ1人！その方を大切にするために今日何ができるか考えてみよう！

2021/8/29(日)

Ⅱ 歴代誌 22 章

ヨラム王の病死後、王となった息子のアハズヤは、父ヨラムと同じように神様を拒む歩み続けました。原因は母親のアタルヤにありました(3)。アハズヤは北の王が負傷した時に見舞いに訪れ、アハブの家を断ち滅ぼすために神様によって立てられたエフーの軍勢に殺されてしまいます。

アハズヤが死ぬと南王国では大騒動が起こり、王母であるアタルヤがダビデ王家に連なる人々を皆殺しにして、王位を継ぐことのできる候補者を絶滅させました。それはアタルヤが南ユダ王国の支配権を手にするためでした。かろうじて末子のヨアシュがアハズヤの妹によって救い出されましたが、国の実権はアタルヤが握り、抵抗できる者はいませんでした。王たちが神様を捨てたことによりダビデ王家は滅亡の危機に瀕しました。

神様を捨てるという愚かさから私たちの心が守られるように祈りましょう。